

17-12 授業解題

島名：グローバル・イシュー

教科（領域）：音楽

単元（教材）：世界のいろいろな弦楽器の音色を味わって聴こう

対象：5年2組

授業者：高橋 詩穂

1. グローバル・スタディーズの観点からみた本授業の「強み」

この授業のグローバル・スタディーズとしての目標は、世界の多様な弦楽器の音色を味わい聴くことを通して、多様な音色の良さやそれぞれの楽器のつながりに気付くことである。音楽科の特徴は、表現や鑑賞の活動を通して多様な文化のありように直結した体験ができる点であろう。

この授業は、最近ではテロや内戦のイメージが強いアラブ諸国について、まず、その音楽を知っているかを児童に問いかけた。やりとりを通して児童は、アラブ諸国については石油、イスラム教、戦争、といった固定的なイメージがあり、具体的なことがわかっていないことに気づいた。そして、アラブの文化も宗教や戦争以外の多面性を持つことや、外国に関するイメージというのはともすれば固定しがちであることに気づいていった。

またウードというアラブ圏に広く分布する弦楽器の音を他の地域で用いられている楽器の音と比較しながら鑑賞し、それぞれの音の感じを言語化した。そして、各地の楽器がつながりを持つこと、それはこれまで学んできた三味線にも影響を与えていることを確認した。これらの活動を通して、子どもたちは様々な地域の文化が互いにつながりを持っていることを理解することができた。

このように、音楽や楽器という具体的で身近な教材を通して文化に関する児童の認識に働きかけることができたことがこの授業の強みである。

2. グローバル・スタディーズのカリキュラム開発に向けて

伝統音楽として低学年から体系的に日本の音楽や楽器に触れてきた。そういった基盤の上にとどのように多様な文化の音楽や楽器を通じた学びを積み重ねていくか、今後も新たな提案がなされるものと期待している。

授業では様々な楽器の音色を手掛かりに文化のつながりを考えていた。もう少し時間を取ることができれば、楽器の音色からさらに発展して、各地の音楽のリズム、旋律など音楽を形作るその他の要素にも比較対象の範囲を広げることができ、小学校高学年の音楽科の教育課程との結びつきを明確にすることが可能になるのではないかな。